

ふれあいトムともだより No 11

鶴牧・落合・南野地区地域福祉推進委員会

地域を知ろう！ 「目指したのは一生暮らしたくなる“故郷”」

～多摩ニュータウンはこうして造られた！～

今年度も継続して「防災と見守り」をテーマに開催しています！第2回ふれあいトムともでは、ニュータウンの成り立ちを知り、今の地域を考えるきっかけにしようと、旧公団でニュータウン開発に携わった、大石さんにお話を聞きました！ニュータウン開発に携わった大石さんだからこそのお話を聞くことができました！



造成が進む「多摩センター・落合・鶴牧地区」1976 UR 撮影パルテノン多摩所蔵



大石武朗氏
多摩市在住。
日本住宅公団に勤務し、当時から多摩ニュータウン開発に携わった。

～ニュータウンの成り立ち～

- 昭和 39 年頃
 - ・多摩ニュータウン開発は、住宅困窮問題からスタート！
- 昭和 46 年 3 月
 - ・諏訪・永山・愛宕 初入居
- 昭和 49 年頃
 - ・公害・環境問題が日本で顕在化。造成計画が修正され、公園の拡大、歩行者専用道路が整備。
- 昭和 51 年頃
 - ・住宅の広さ、質、緑の環境等を重視した、落合、鶴牧地区の計画の見直し。
 - ・落合 3,4 丁目 →昭和 53 年入居開始
 - ・落合 5 丁目、鶴牧 3,4,5 丁目 →昭和 57 年以降入居開始

★ただ団地を建てるだけでなく、見直しを重ね、景観等も考えてまちが造られたんですね！！



大石さんに聞きました！多摩ニュータウン一問一答！

参加者の皆さんから大石さんに質問タイム！
会場は「笑いに包まれ」ながらも、開発に携わった方だからこそその回答に納得！



質問1:昭和 40 年～50 年代当時はニュータウンの高齢化を想定していましたか？

回答：5 階建てのエレベーター無しの団地など、当時は住宅を沢山建てるのが目標だったので、そこまで考えてなかった！

質問2:歩者分離について経緯を知りたい！

回答：多摩は基本的に丘陵と谷戸で成り立っていた。丘陵を造成すると、建物が上部、上下水道や一般道路は下部になる。団地間の人が移動するのに谷戸に橋を架け歩行者優先道路を造った！（計画的）

質問 3:多摩ニュータウンは災害に強いのか？

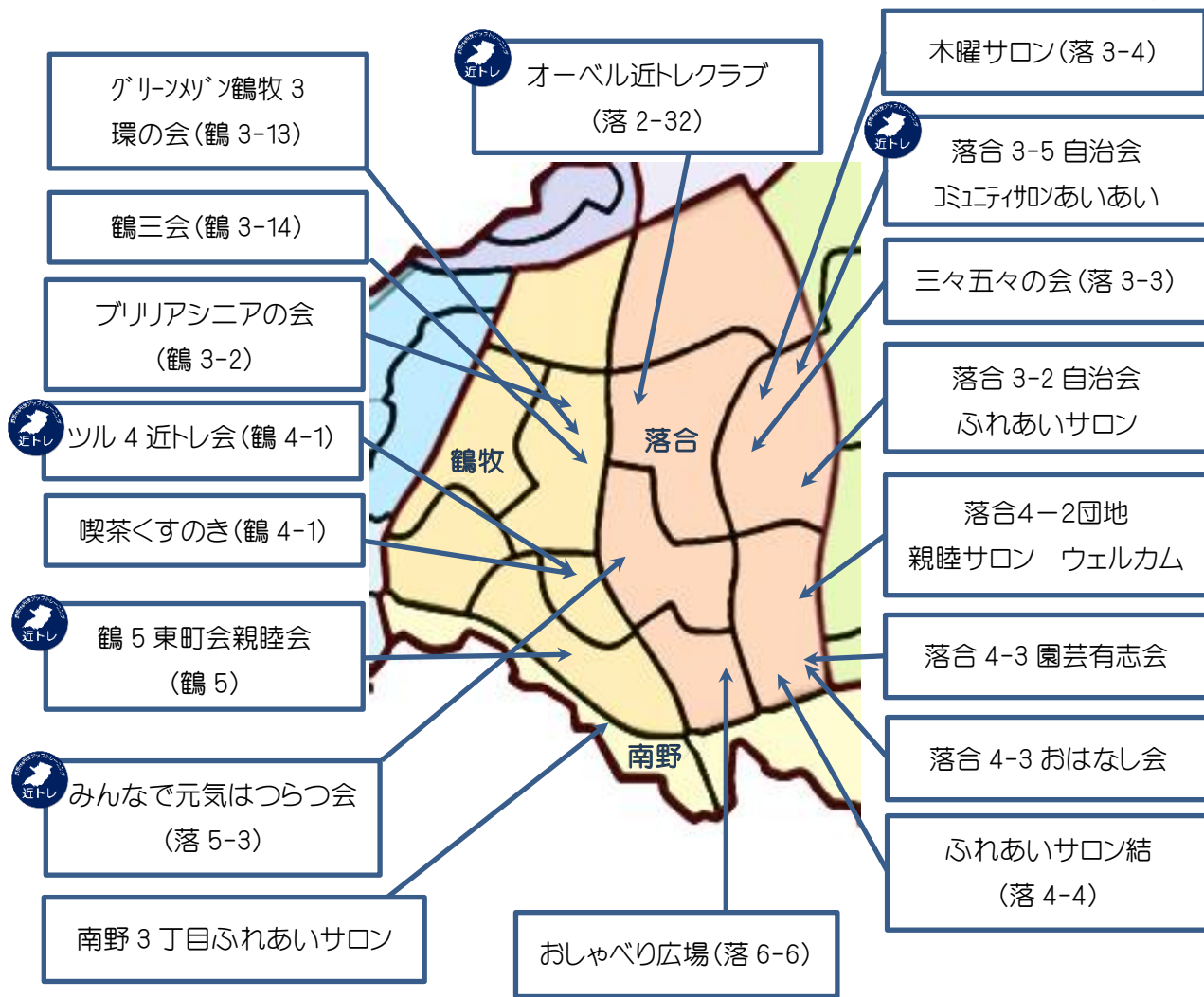
回答：建築の専門家の話では、絶対安全とは言えないが「壁式構造」の建物（タウンハウスや 5 階建ての集合住宅）はこれまでの震災でも、全国で倒壊した例はないと言われている。


まとめ:(参加者のうち若い方の意見として: 落合在住 上坂さん)

小さい頃から過ごしていた多摩ニュータウンだが、ここは新しく造られた街という認識だったので「歴史とは縁のない地域」だと感じていた。「歩車分離」など、現在の多摩では当たり前と感じられる特徴が、大石さんのように「計画をしてくれた方々」がいたからのものであることを知れて大変貴重な機会になった。他にも、稲城では歴史的な文化財が発掘された経緯など、今回知ることができた内容を、自分も次の世代に伝えていくことができればと思った。

気軽に集まって地域で仲間作り！

～ふれあい・いきいきサロン 集いの場～



 近所 de 元気アップトレーニング開催サロン 週1回介護予防の体操をしているサロン
 問い合わせ:多摩市社会福祉協議会 まちづくり推進担当 ☎373-5616

ふれあिटムとも(鶴牧・落合・南野地域福祉推進委員会)とは

自治会・住宅管理組合やサロン、民生・児童委員、地域包括支援センターなど様々な団体のネットワークづくりを推進しています。

「ふれあिटムとも」で情報共有や意見交換を行い、「地域の横のつながり」をつくることで、地域の課題や活性化を図る応援をします。

日頃、地域で感じている心配事やご意見など、ぜひ皆さまの声を聞かせてください！
 たくさんのご参加をお待ちしております。

編集・発行
 問合せ

ふれあिटムとも 世話人会
 多摩市社会福祉協議会 地域福祉推進課 まちづくり推進担当
 多摩市関戸4-72 ヴィータ・ミューゼ 多摩ボランティア・市民活動支援センター内
 TEL:042-373-5616 FAX:042-373-6629 担当:渡邊・森田